

江戸東京博物館

NEWS

E D O - T O K Y O M U S E U M N E W S

江戸東京
博物館
ニュース

Vol. 100

記念号

2018年4月
いよいよ
再オープン!

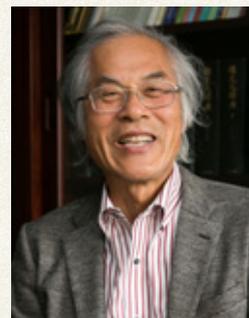


企画展 | NHKスペシャル関連企画「大江戸」展

特集展示 | 「写楽の眼  恋する歌麿 — 浮世絵ベストコレクション —」



ごあいさつ



東京都江戸東京博物館 館長
藤森 照信

わが館も開館25年にいたり、改修の時期を迎えています。

本館は、1階の特別展示室とホールに手を入れていきます。特別展示室は、床の上にケースを置くために水平性が求められますが、やや凹凸が生じており、直すことなどが工事の内容です。ホールは伝統芸能にもふさわしいよう舞台や楽屋を変えます。

分館のたてももの園では、都心の木造住宅や看板建築をより自然環境(風雨と落葉)の厳しい小金井公園に移したこともあり、雨漏りが発生してしまいました。雨漏りは昔も今も、建築の経年変化とともにつきもののようにして発生するものですが、早いうち手を打つかどうかはその後の分かれ目になります。建物の形状、防水下地、仕上げ、そして施工精度によって原因は異なっており、その対策もこれといった理屈も方法もなく、「経験知」によるしかありません。どうするかを専門委員会に諮ったところ、「町場の修理」を原則とするよう決ま

しました。大工や板金屋さんなどの「経験知」を意味するいい言葉であり、方法だと思いません。

本館では、順調に工事は進み、4月1日(日)と7日(土)の2回に分け、再オープンのイベントを開くことになりました。ご期待ください。

本館の周囲も、ふたつの文化施設の開設により文化的環境が変わり始めています。ひとつは、2016年(平成28)オープンの墨田区立すみだ北斎美術館で、もうひとつは、日本美術刀剣保存協会による「刀剣博物館」です。北斎人気は恒常的に高く、日本刀への関心は「刀剣女子」の出現によりにわかに信じがたいほど盛り上がっています。

「江戸博」「北斎」「刀剣」加えて国技館の「相撲」と並べると、両国の地にまとまったイメージも生まれます。こうした新しい文化的環境を生かすよう考えていこうと思います。

新作オリジナル動画公開!

オリジナル動画を新しく製作しました。動画では、江戸の美意識や文化を現代の東京と対比させながら、動きや形のつながりの面白さを表現した5秒程度のショート映像を複数つないで作りました。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>



江戸東京博物館公式キャラクター ギボちゃん

江戸東京博物館は4月1日(日)に再オープン

半年の全館休館を経て、4月1日(日)に再オープンします。この日は、ご来館いただいたすべての方の常設展観覧料が無料になります! また、4月1日(日)からの1週間で再オープン記念WEEKとして、1日(日)と7日(土)に、催し物を開催します。催し物の詳しい内容については9ページをご覧ください。

※4月7日(土)は18:00から大きな音の出る音楽イベントを予定しています。この時間に展示の観覧を予定されている場合はご注意ください。

ミュージアムショップ



1階ミュージアムショップ(完成イメージ)



5階ミュージアムショップ(完成イメージ)

1階と5階常設展示室内のミュージアムショップがこの春リニューアルオープンします。「江戸から東京へお買い物をめぐる時間旅行」をコンセプトに、江戸、明治、大正、昭和、平成の各時代を象徴する商品を取り揃えます。1階のショップにはプロモーションテーブルを新設し、ここでは伝統工芸土の実演販売や、季節や展覧会にちなんだおすすめ商品の紹介などを行う予定です。5階のショップは昔の商家をイメージしたつくりで、主に伝統柄の布ものや、文具、ア

クセサリーなどを販売します。ご好評いただいている江戸東京博物館オリジナルグッズも、春から夏に向けて新商品が続々店頭に並びますので、ご期待ください。何度訪れても楽しめるショップになります。ご来館の際はぜひお立ち寄りください。

information

■ミュージアムショップ
営業時間・営業日:
博物館の開館時間に準じる
連絡先:03-6456-1781

レストラン・カフェ

銀座洋食 三笠會館
SINCE 1925
江戸東京博物館店
【1階】

銀座の地で90年余りの歴史を刻んできた、三笠會館伝統の洋食メニューを一堂に揃えます。磨き込まれたソースや調理法がお気軽にお楽しみいただけます。手間暇かけたデミグラスソースのハンバーグ、かつて西洋釜飯と銘打っていたドリア、復刻スタイルのナポリタンの他、ここでしか味わえない限定メニューもご用意。博物館鑑賞の余韻と共に、ご賞味ください。

カフェ三笠
【1階】

銀座三笠會館による初のサンドイッチ&カフェ。自慢のハンバーグをサンドイッチで頬張れます。グループ各店で人気の「王道プリン」やオリジナル和スイーツも楽しめます。1925年(大正14)創業当時は小さな氷水屋からお店を始めたと言われていることから、夏季限定でかき氷も予定しています。ご鑑賞後のコーヒートレイクにぜひ、お立ち寄りください。

和食・甘味処
桜茶寮
【7階】

当店は館の最上階に位置し地上56m(江戸城の天守からの眺めに近い)の高層から隅田川を見渡せる東京屈指の眺望と共に、江戸の食文化をテーマに、お食事や喫茶を楽しめるダイニングです。

お食事は「趣」を活かしたメニューから華やかな松華堂弁当、コーヒーから和スイーツまで、思い出に残るお食事や甘味をご用意しています。店内は130席とゆつたり広く、車椅子のお客様や団体様の急なご利用も可能です。



information

■【1階】銀座洋食 三笠會館 江戸東京博物館店
03-6240-4877
■【1階】カフェ三笠
03-6456-1246
10:00~18:00(土曜日は20:00まで)
オーダーストップは閉店30分前
■【7階】和食・甘味処 桜茶寮
03-5611-5550
11:00~18:00(土曜日は20:00まで)
オーダーストップは閉店30分前



企画展

NHKスペシャル関連企画 「大江戸」展

4月1日(日)～5月13日(日)
常設展示室5F企画展示室

「大江戸」という言葉が史料に

会です。

現れるのは、18世紀中頃、推定人口100万人を超えたあたりからです。いかにして、江戸は政治・経済・文化の中心都市「大江戸」へと発展していったのでしょうか。江戸の始まりを徳川家康の入封以前に遡り、また「大江戸」の繁栄を絵画や古写真から考えてみよう、というのが本展覧

会です。平清盛が活躍する頃、江戸の地には秩父平氏一族である江戸氏が拠点を構えました。その頃から江戸の地で多くの人々が動き出します。室町時代には太田道灌が登場し、江戸城を築きました。その後、江戸城は戦国大名北条氏、そして徳川家康へと引き継がれます。

江戸城主となった家康は16

03年(慶長8)に征夷大將軍となりました。しかし2年後には嫡子秀忠が早くも將軍職を継ぎます。この代替わりを待っていた

かのように、江戸城の大改修が始まります。1606年(慶長11)、本丸高石垣の普請を皮切りに、次第に近世の城へと整えられました。「江戸始図」ほかの慶長年間頃を描いた江戸絵図がこの様子を語っています。江戸は拡大を続け、寛永年間頃には家康の時代の面影をとどめないほどになつていました。

都市江戸の変化の節目には、火事も関わっていました。とりわけ明暦の大火、明和の大火、文化の大火は大きな被害

をもたらしました。絵巻物に描かれた勢いさかんに燃える炎の様子から、被害の大きさがうかがえます。

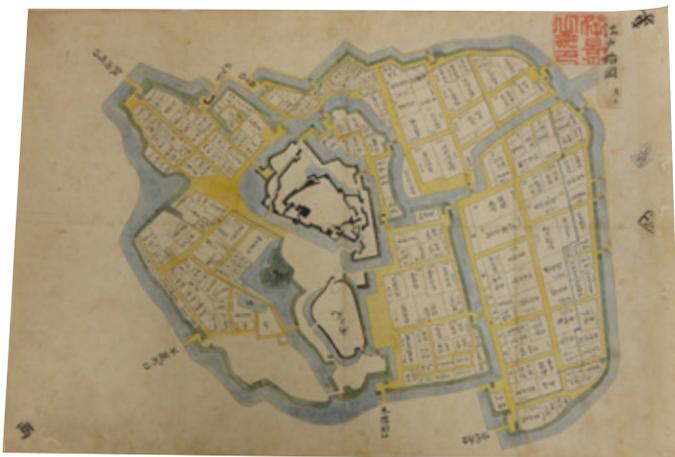
また、江戸の水辺には、華やかな場所が登場しました。夏場の両国界隈は納涼で賑わい、花火は江戸の夏を代表する風物詩でした。このほか、江戸周辺の品川など、水辺にはいくつかの名所が生ま

れました。これらの名所は、錦絵の題材となり、名所図会などの挿絵に描かれました。幕末になるとその風景は写真にも捉えられるようになります。写真は海外に向けて江戸の様相を発信する媒体にもなっていました。

NHKの協力のもとこの展覧会を企画しています。4月から放送が予定されている、NHKスペシャル「シリーズ大江戸」(全3回)の関連展覧会です。ご期待ください。(齋藤慎・窪田直子)

ちやあさじ あおいもんつきながみしも
茶麻地 葵紋付長袴
17世紀前半
京都府所蔵・京都文化博物館管理

みどころ



えどはじめず
江戸始図

17世紀後半 松江市立松江歴史館蔵
展示期間:4月24日(火)～5月13日(日)

みどころ

かじずかん
火事図巻(部分)

江戸時代後期 資料番号:89210003
展示期間:4月24日(火)～5月13日(日)

みどころ



information

NHKスペシャル関連企画 「大江戸」展

開館時間:9:30～17:30、土曜日は19:30まで
入館は閉館の30分前まで。

会場:常設展示室内 5F企画展示室

休館日:4月9・16・23日、5月7日の月曜日

◎常設展観覧料でご覧になれます(*4月1日(日)は無料)。

◎会期中、展示替えがあります。

主催:東京都、東京都江戸東京博物館、NHK

「写楽の眼」恋する歌麿 —浮世絵ベストコレクション—

4月1日(日)～5月6日(日)
常設展示室5階江戸ゾーン「江戸の美」芝居と遊里コーナー他

4月1日(日)再オープンを記念して、特集展示「写楽の眼」恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—を開催します。

浮世絵師の東洲斎写楽と喜多川歌麿は、すぐれた描写力により、18世紀後半を中心に江戸文化の最前線で活躍しました。版元の蔦屋重三郎によつて才能を見出され、世に送り出された2人の浮世絵、特に写楽の役者大首絵、歌麿の美人大首絵は人々に新鮮な驚きを与えました。彼らの作品は現代でも高い人気を誇っています。

本展では、当館所蔵の写楽・歌麿による浮世絵版画と関連資料30点を厳選し、展示します。の中には、初公開となる作品が含まれています。その一つ、写楽の「市川鯉蔵の竹村定之進」の力のこもった目の形象は、江戸東京博物館のロゴマークデザインのもととなったものです。

常設展示室内5階ミュージアム・



たかしま
「高島おひさ」初公開
喜多川歌麿 画
1793年(寛政5)頃 資料番号16200004



いちかわえびすぞう
「市川鯉蔵の竹村定之進」初公開
東洲斎写楽 画
1794年(寛政6) 資料番号:16200002

ラボ前と特集展示会場の出口付近では、展示中の浮世絵のうち、初公開作品を含む数点を拡大し、記念撮影スポットを設けています。写楽の描いた歌舞伎役者のしぐさ、歌麿の描いた江戸美人のポーズを追体験することが出来ます。江戸に花開いた浮世絵版画の世界を体感しながらお楽しみください。(西村直子)

ワークショッ 「日本髪を結うデモン ストレーション—歌麿美人 ができてあがるまで」

特集展示「写楽の眼」恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—の関連企画のひとつとして、ワークショッ「日本髪を結うデモンストレーション—歌麿美人ができてあがるまで」を行います。ベテランの結髪師である林照乃氏が、歌麿美人でおなじみの髪型、燈籠髷を結び上げるデモンストレーションを行い、ポラ文化研究所シニア研究員の村田孝子氏が解説します。

また、ミュージアムトークの特別企画として、週末夕方の展示解説に加え、英語通訳付きの展示解説も行います。ぜひご参加ください。

information

日本髪を結う デモンストレーション

日時:4月22日(日) 14:30~16:00
会場:常設展示室5階 中村座前

ミュージアムトーク

日本語:4月13日(金) 16:00~、
21日(土)、28日(土) 18:00~、
5月4日(金) 16:00~

英語通訳付き:4月4日(水) 10:30~、
11日(水) 16:00~

集合場所:常設展示室5階 日本橋下
※詳細は裏表紙「ミュージアムトーク」をご覧ください。

平成29年度

新収蔵品の紹介

平成29年度も、みなさまのご協力によって、多くの博物館資料を収集することができました。その一部をここに紹介いたします。

1 桜咲き 人鳥集う 浅草寺



「浅草寺図」 歌川豊春 画 江戸後期 紙本着色 資料番号:17200218

浅草寺(台東区浅草)は1400年近い歴史を持つ観音霊場で、今も多くの参拝客が訪れています。歌川豊春(1735~1814)の署名がある、この肉筆浮世絵は、画面向かって左に本堂(観音堂)を大きく配し、隨身門(現在の二天門)を中央に、右手前には手水場、奥に五重塔を描いています。本図のように、遠近感を強調して浮き出してくるよう見える絵は、「浮絵」と呼ばれ、豊春が得意としました。桜の季節に浅草寺に参詣する武家や町人、老若男女とともに、本堂大屋根に巣を作るコウノトリや境内の鶏など多種多様な鳥が描かれています。縦104cm、横143cmの大きな画面から、浅草寺の賑わいが伝わってくるようです。

2 江戸の名所 亀戸梅屋敷

歌川広重の「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」で知られる清香庵(亀戸梅屋敷)は、代々喜右衛門を名乗る安藤氏により明治期まで守られてきました。安藤氏は当初水戸家の酒御用を務めていましたが、元禄期に小梅より亀戸に引越し、百姓となります。八代將軍徳川吉宗が鷹狩の際の御膳所として利用したことにより、三代喜右衛門は鷹狩の獲物を飼育する綱差役に任命され、幕府より扶持をもらう立場になりました。さらに銘木「臥龍梅」の実を江戸城に献上することを許されます。これらのことは今回寄贈された「由緒書」によって初めてわかったことで、それを示す御用看板や出入鑑札もあります。

「江戸名所図会」に記された「臥龍



「臥龍梅(將軍御腰掛の梅)」 明治前期 資料番号:17650002

梅」は有名で、明治期に写真に撮影され絵葉書にもなりました。1878年(明治11)には皇太后も訪れましたが、1910年の大洪水で枯れてしまいました。



「御本丸西御丸御用臥龍梅看板」 江戸後期 資料番号:17000001

3 江戸東京の名工、是真の魅力のヒミツ

近年、幕末から明治期の美術工芸に注目が集まり、各地で展覧会が開かれています。この時代の工芸界で最高峰の一人に数えられたのが、柴田是真（1807～1891）です。是真は江戸に生まれ、名工古満寛哉に入門、優れた技巧の作品を数多く生み出しました。絵師としても名高く、34歳の時に王子稲荷に納めた「鬼女図額」は、江戸市中で大評判となりました。世



しょうき さん 鬼
「鍾馗と三鬼」
柴田是真絵様手控
江戸末期～明治前期
資料番号:17200252



ふくじょひやくたい
「福女百態」
柴田是真絵様手控
江戸末期～明治前期
資料番号:17200321

の中が大きく変動した時代にあつて、是真はこの道一筋に生き、亡くなる前年の1890年(明治23) 帝室技芸員の榮譽を受けました。

今回収集するのは、是真が控えとして手元に残した作品の下絵や図案など300点以上にのぼる資料です。是真の作品からは、軽妙洒脱な江戸の美意識を感じることができます。

4 裁縫学習で作られた かわいいミニチュア着物

裁縫雛形は、いろいろな服の縫い方をより多く効率的に学ぶために、実物の三分の一で作られたミニチュアモデルです。明治期に裁縫学校で考案されました。寄贈者のお母様は、大正期に16歳で地方から上京、東京の裁縫学校で2年間学びました。その間に作った30点あまりの雛形です。興味深いのは、洋服は手縫いなのに対し、洋服はミシン縫いがされていることです。当時ミシンが普及し、裁縫教育の現場で教えられていたことを物語ります。

お母様は卒業後、裁縫の先生になりました。その後、結婚して仕事を辞めましたが、家族の服はみなお母様の手作りだったそうです。仕事でも家庭でも、女性の身を助けた裁縫という「手わざ」を見ることができます。



裁縫雛形 1922年(大正11)
右から裁附袴、打着、セーラースコート、7・8歳児長ケープ
(資料番号:右から17000102、17000096、17000115、17000119)

*各資料の解説は、栗屋朋子、畑尚子、落合則子が担当しました。

江戸時代の橋の魅力

2 017年(平成29)11月、東
京都は隅田川にかかる橋梁

群の新しいライトアップ計画を公表し
た。これは2020年に開催される
オリンピック・パラリンピックに向けた
おもてなし計画の一環として実施され
るといふ。隅田川の夜の水面に映える
美しいシルエットは多くの人々を楽し
ませてくれるに違いない。

実用性とデザイン性を兼ね備えた
現代の隅田川橋梁群には語りつくせ
ぬ魅力を感じるが、江戸時代の橋には
それとは全く別の魅力を感じる。江
戸時代の橋は木製であるが、両国橋ク
ラスの橋になると橋を支える橋杭の
長さは最大で全長17メートル余、自重
6トンに達することがあった。橋を架
けようとすれば、こうした巨大な橋
杭を川底に80本以上も打ち込まな
ければならなかった。江戸時代、両国橋
クラスを架橋することは、まさに
巨大なプロジェクトであつたといえ
る。

ところで想像力を働かせて巨大な

橋杭を打ち込む場面を思い描いて欲
しい。多くの人が思い浮かべるのは、
まず足場を組んで巨大な重石をつり
上げ、それを橋杭の上に落とすこと
で橋杭を川底に打ち込むといったシー
ンではなからうか。しかし実際は全
く違つた。

江戸時代の橋杭の建て方のひとつに
「震り込み」といわれる方法がある(図
版1参照)。詳細を省いて大雑把に説
明すると、まず巨大な橋杭の下部を
削つて尖らせた後にこれを垂直に立
て、橋杭の上に足場を付けてそこに多
量の土嚢をピラミッド状のように高く
積み上げることです。5〜10トンにも及
ぶ重量をかける。その後、橋杭の最上
部に荒縄をかけ、それをツツツと
引つ張つてランダムな微振動を与え、
それによつて巨大な橋杭を少しずつ
地面に食い込ませていったという。本
当にそんな方法で橋杭を打ち込めた
のか、にわかには信じ難いというのが
正直な感想である。また荒縄を引い
て橋杭に振動を与える役割を担つた

のは年端もいかぬ子どもたちであつ
た。なぜ子どもでなければいけなかつ
たか詳細は未詳である。

ハイテクノロジーの時代となつた現
代、杭打ち技法は機械
化によつて大きく様
変わりした。しかし子
どもたちがつくり出す微
振動は、機械がくり出
していた超音波に代わつ
ても、基本原理は共通
しているという。果たし
てローテクなのかハイテ
クなのか、にわかには断
じ得ない「震り込み」とそ
うした技術の集大成で
あつた江戸時代の橋。
現代のハイテクノロジー
とは全く異次元の、な
んとも人間的なテクノ
ロジーのあり方に先人
たちの知恵と魅力を感じ
るのである。



図版1 「矢作橋杭震込図」
首都大学東京図書館蔵

矢作橋の橋杭を震り込みという
工法を用いて建てている様子
を描いた図。
橋杭の上にピラミッド状に積み
上げられた土嚢と橋杭に振動を
与える役割を果たした子ども
たちがよく描かれており興味深い。

都市歴史研究室 学芸員

市川寛明

図書室から お知らせ

「蔵書点検」とは？」

昨年10月からの休館中、図書室の仕事のひとつとして「蔵書点検」を行いました。蔵書点検とは大まかに言うと、図書が正しい場所にあるかをデータと照合し状態を確認、必要に応じてデータを訂正し、不明資料があれば探索する、という地道ですが、とても大切な作業です。

図書室では毎年、蔵書点検のために2、3週間ほど休室期間を設けますが、全蔵書を一巡するには数年かかります。しかし、今回は半年に及ぶ全館休館のため、全蔵書の点検をほぼ終えることができました。4月の開室時には、点検を終えたおなじみの本のほか、新しく蔵書に加わった新着図書もご覧いただけます。もちろん、この号で100号を迎えた江戸東京博物館NEWSも、創刊号から全て所蔵しています。新旧の資料が揃って新たな年度を迎える図書室に、ぜひお立ち寄りください。



えどはくカルチャー出張中

「えどはくカルチャー」は、江戸東京の歴史や文化について、当館の学芸員・研究員、テーマによっては外部の講師が解説を行う講座です。従来使用してきた1階のホールや会議室が改修工事のため、分館の江戸東京たてももの園や墨田区のコミュニティセンター、当館と同じ東京都歴史文化財団の美術館などの施設に会場を移して実施しています。

今年の2月から3月にかけて、上野の東京都美術館で、当館と東京都美術館、東京都現代美術館の学芸員による「上野の歴史と東京都美術館のあゆみ」を行いました。えどはくカルチャーを上野で開催するのは初めてのことでした。美術館や博物館が集まる上野の地理や歴史、日本初の公立美術館として東京都美術館が果たしてきた役割、建築



作品としての美術館などのテーマに、来場者の方も熱心に聴き入っていました。「講座の前と後では、同じ場所や建物の見方が変わって面白い」との感想がありました。

4月からのえどはくカルチャーは、企画展「大江戸」関連のテーマや東京都庭園美術館との連携講座などを予定しています。テーマや日時、開催場所やお申し込み方法は、チラシやホームページをご覧ください。

刊行物のご案内

調査研究の成果をまとめた『東京都江戸東京博物館 紀要第8号』、平成29年度シンポジウムの報告『調査報告書第33集 浅草地域のあゆみⅡ―近代化と盛り場の変容―』、当館所蔵史料の翻刻本『江戸東京博物館史料叢書9 江戸大伝馬町名主馬込家文書 旧記』を3月末に刊行します。4月から当館ミュージアムショップでも取り扱う予定の他、7階図書室でもご覧いただけます。





江戸東京博物館NEWSは、開館前の1991年(平成3)に、『江戸東京博物館 平成4年度開館準備ニュース1』として刊行されました。開館後の1993年(平成5)には、『江戸東京博物館NEWS vol.1』が発行されました。実に28年もの間多くの方々にご愛読いただいております。そして、今号で記念すべき100号を迎えることができました。これまで、展覧会や催し物、研究など、当館の最新情報を発信してきましたが、今後も当館の旬の情報をお届けしていきます。これからも『江戸東京博物館NEWS』にご期待ください！

江戸東京博物館NEWS 100号突破!

再オープン記念イベント開催!

EDO→TOKYO VISION

江戸東京の歴史・文化とつながる一週間

DAY 1 ▶ 4月1日(日) 14:00~15:30

テーマ「受け継ぐ美意識」

江戸時代は、日本においてアートが大衆のものとなっていた時代。以来400余年、現代を生きるクリエイターたちに受け継がれているものは何か、トークとパフォーマンスを通じて、江戸の美意識とその可能性を探ります。

この日は常設展観覧料が無料!

●トークセッション

コーディネーター:橋本麻里(ライター・エディター)

岡塚章子(東京都江戸東京博物館 学芸員)

しりあがり寿(漫画家)

鶴澤寛也(女流義太夫三味線)

天明屋 尚(現代美術家)

●ライブパフォーマンス

しりあがり寿 × 鶴澤寛也

DAY 2 ▶ 4月7日(土) 14:00~15:50

テーマ「サステナブルな暮らし」

江戸時代の暮らしの知恵を知ることで、東京の未来のライフスタイルが見えてくる。サステナブルやリユースなどをキーワードに、江戸の専門家と現代の活動家たちを交え、これからの東京を楽しくサステナブルに生きるヒントを探ります。

●トークセッション

コーディネーター:辻 信一(文化人類学者・環境運動家)

アズビー・ブラウン(デザイナー・作家)

古今亭菊千代(一般社団法人落語協会 真打)

末吉里花(一般社団法人エシカル協会 代表理事)

ソーヤー海(共生革命家・東京アーバンパーマカルチャー創始者)

藤森照信(東京都江戸東京博物館 館長)

●落語一席

古今亭菊千代

(敬称略・出演者五十音順)

●スペシャルライブ 18:00~

日本の歴史に造詣が深く、ファンキーなサウンドに乗せて歌う日本史の歌詞と、ユーモア溢れるステージングが話題を呼んでいるレキシのスペシャルライブ。

- ・約40分のアコースティックライブを予定しております。
- ・事前抽選で当選された方に、整理券を配布いたします。当日は原則として整理券をお持ちの方のみが観覧可能です。
- ・事前抽選および整理券配布についての詳細は、3月26日(月)に江戸東京博物館ホームページにて告知いたします。
- ・博物館で行うライブとなりますので、客席には限りがあります。博物館の展示を観覧することが主目的のお客様の妨げとならないように、ライブ観覧目的だけのご来館はお控えください。

企画展 (常設展示室内 5F企画展示室)

■ 4月1日(日)～5月13日(日)

NHKスペシャル関連企画「大江戸」展
(詳細は3ページ)

■ 6月2日(土)～7月22日(日)

発掘された日本列島2018

■ 8月7日(火)～10月8日(月・祝)

東京150年記念
「首都東京の150年展」(仮)

■ 10月23日(火)～12月9日(日)

玉 — 古代を彩る至宝 —

特集展示 (5階常設展示室)

■ 4月1日(日)～5月6日(日)

写楽の眼  恋する歌麿
— 浮世絵ベストコレクション —
(詳細は4ページ)

■ 8月28日(火)～9月24日(月・祝)

玉川上水(仮)

- 休館日
- 臨時開館日
- 夏季夜間開館日
- 全館臨時休館日
- 図書室整理休室

※企画展・特集展示の内容・会期は変更することがあります。

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



貸出施設(ホール・楽屋・会議室・学習室)の再開は、
2019年(平成31)4月以降を予定しています。
※詳細につきましては別途改めて、ご案内いたします。



(左から) 武居三省堂、花市生花店、丸二商店
(江戸東京たてもの園)

東京150年記念
「看板建築展」

3月20日(火)〜7月8日(日)

1923年(大正12)9月1日、マグニチュード7.9の大地震が関東地方の南部や周辺地域を襲い、直後に発生した火災は東京の街を焼き尽くしました。その後、東京は震災前の江戸の風情を残した街並みから、鉄筋コンクリート造のビルが立ち並ぶ近代的な都市へと変貌を遂げました。そのようななか、真つ平らな表面に銅板やタイルなどが張られた、木造の商店建築が数多く建てられました。これが「看板建築」です。

それからまもなく1世紀。江戸東京たてもの園では、看板建築を6棟移築・復元し保存・公開しています。建築家の手によらない自由奔放なデザインは、当園の「顔」のひとつともいえる重要な存在です。

この展覧会では、今では貴重な存在となりつつある看板建築の特徴とその魅力をあらためて見つめます。

催し物のご案内 春期ふれあい体験教室

事前応募制教室 ●参加無料

●歴史散歩「中山道から板橋宿界隈散歩」

日時:5月26日(土) 13:00~16:00

*荒天時は6月2日(土)に順延

講師:ふれあいボランティア 対象:一般 定員:20名 応募締切:5月12日(土)



お申し込み

往復はがき(62円×2=124円)に住所・氏名(ふりがな/2名様まで)・年齢・電話番号・希望講座名を明記の上、下へ(締切日消印有効)
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係

当日受付教室

●いずれも参加無料(常設展示室内で開催の教室は観覧券が必要)

●講師:ふれあいボランティア

*3階江戸東京ひろばで開催の教室は、荒天などによるひろば閉鎖時は中止となります。

●和算パズル

日時:4月7日(土)、6月2日(土) 各日13:00~15:30 (受付終了15:00)

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ 対象:小4以上

●反古紙で折る小物 江戸のエコロジーを見習おう

日時:4月7日(土)、6月2日(土) 各日13:00~15:30

(受付終了15:00)

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ 対象:小学生以上



●歌舞伎の鳴り物を鳴らしてみよう

日時:4月14日(土)、5月19日(土) ①13:00~13:30 ②14:30~15:00

*各回とも時間内にお越しください。

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ 対象:幼児~一般

●ときめきキモノ体験

日時:4月21日(土) 10:30~12:00 (受付終了11:30)

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ

対象:3歳以上 定員:25名程度



●藍でコースターを染めてみよう(両国にぎわい祭り)

日時:4月28日(土) 12:30~14:30 (12:20より会場前で受付・整理券配布)

場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所 対象:小学生以上 定員:60名

●歴史散歩「広重の名所江戸百景(両国)今昔」(両国にぎわい祭り)

日時:4月29日(日・祝) ①10:30~11:30

②14:00~15:00 (各回15分前より受付)

集合場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所前(看板あり)

対象:一般 定員:各回15名



●「8枚羽のかざぐるまを作ろう」

日時:5月20日(日) 13:00~14:30

(12:50より会場前で整理券配布)

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ

対象:小学生以上(但し小3までは大人と一緒に) 定員:30名



●江戸文様で遊ぼう

~消しゴムはんこで千代紙をつくる~

日時:6月17日(日) 13:00~15:00 (12:50より会場前で受付・整理券配布)

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ

対象:小学生以上 定員:30名



●舞扇子で遊びましょう

日時:6月23日(土) 13:00~14:00

場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ

対象:小学生以上 定員:30名程度

ミュージアムトーク

●常設展示室のみどころを学芸員が解説します。 ●日時:毎週金曜日 16:00から (*印の回を除く)
●常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

企画展NHKスペシャル関連企画「大江戸」展みどころ 4月6日、27日

特集展示「写楽の眼 恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—」みどころ

4月13日、5月4日

*①4月21日(土)、28日(土) 18:00~

*②4月4日(水) 10:30~、11日(水) 16:00~(②は英語通訳付き)

出版と情報 4月20日、5月11日

開化の背景 5月18日、25日

町の暮らし 6月1日、8日

現代の東京 6月15日、22日

地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」

6月29日

江戸東京博物館 NEWS Vol. 100

お問い合わせ 03-3626-9974(代表)

ホームページ http://www.edo-tokyo-museum.or.jp

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分、東口から徒歩7分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2018年(平成30)3月23日(金)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

制作・印刷 美術出版社 デザインセンター

表紙解説

市川鞆藏の竹村定之進
東洲斎写楽 画
1794年(寛政6)

※表紙は部分

寛政6年5月に河原崎座で上演された「恋女房染分手綱(こいによぼうそめわけたづな)」にて、市川鞆藏(前名・五代目市川團十郎)が演じた竹村定之進を描く。堂々とした貫禄と風格を備えた鞆藏の特徴を描き出し、写楽の作品の中でも傑作の一つ。力のかもった目の形象は、江戸東京博物館のロゴマークのデザインのもととなった。

